

初 明 り

大崎耕土薬菜山



鈴木 宏子 (写真部)

はなやま

発行
 社団法人
宮城県芸術協会
 (郵便番号 980-0803)
 仙台市青葉区国分町 3-3-7
 宮城県民会館内
 電話 (022) 261-7055
 F A X (022) 214-5184
 E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
 編集 小山 喜三郎

新春を迎え皆様方のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。また昨年の宮城県芸術祭をはじめとする諸行事が成功裡に終わりましたことは、ひとえに皆様方のご協力の賜と感謝でございます。

さて昨年度は展示部門のみならず数々の新しい試みが各部門で行われた年であり、恒例の巡回展も県民の方々から親しまれ、喜ばれ、定着するなど変革する胎動を強く感じた年でありました。その動きに応えるべく理事会を三分科会に分け幾度となく協議を積み重ね問題点を明確にし、今後のために指針を示して頂きました。更に五年後の公益法人化に向かって、芸協はどのような理想で取り組むかの課題が加わっております。

折しも本年は芸術協会創立

未来見据え活動を

=年頭のあいさつ=

理事長 小山 喜三郎



四十五周年の節目を迎える記念行事の計画が進んでおります。思えば半世紀の昔、戦後日本は文化国家を標榜する一方、科学技術の振興をはかって歩み出しました。しかしいつのまにか経済優先・便利さ優先の風潮に走り出し、昨年来の厳しい世相に直面して呆然としている現状です。今こそ私達は芸術協会創立の初心に立ち返り、県民のために力強く芸術活動を展開していく秋がきたと考えます。

四十五周年を契機に、未来の芸協のあるべき姿を模索しながら、全会員が部門を超えて県民の方々と共に喜び共に汗を流していく活動を一歩ずつ進めてまいりましょう。生みの苦しみもあるでしょうが芸協でなければ出来ないことに自信と誇りをもって、水平線の少し上を見つめてすごしましょう。

会場どこも大盛況



小山理事長から芸術祭賞の授与

第45回 県芸術祭が閉幕

平成二十年九月二十六日に開幕した第四十五回宮城県芸術祭は、多くの成果を上げ、十一月二十一日ホテル仙台プラザで閉会式を行った。

つめたい雨の降る日にもかかわらず各受賞者をはじめ、関係者や芸協会員ら二百五十余名が出席した。

芸術祭実行委員長小山喜三郎理事長の挨拶で閉会式が始められた。小山理事長はいくつかの事例をあげながら「当用漢字設定の不備」について触れた後、「便利さ優先の時代に流されて行くことを、四十五周年に向けてくい止めたい」と結んだ。

つづいて仙台市企画市民局文化スポーツ部部長寺田清伸氏の挨拶、来賓、主催者代表の紹介、各賞受賞者、功労者ら八十六名が受賞した。

また今回から財宮城県文化振興財団賞が創設され、絵画・彫塑・書道・工芸・文芸・写真の六部門において新たに六名が受賞した。

メディアテークを会場に絵画・写真・彫塑・華道・工芸展。「盛岡・北上方面の文学の旅」の文学散歩。蒲生芳郎氏を講師に迎え「藤沢周平の文学―その大衆性と文芸性をめぐって―」の講演会。長唄演奏会・音楽会・茶会。写真・絵画・

書道巡回展ではどの会場も入場者が多く、活気を呈した。

功績者14人を表彰

閉会式では次の華道部の四人、音楽部の五人、茶道部の五人が功労者として表彰された。

〔華道部〕中嶋梢霞(草月流) 本内一磯、秋元一盟(東州流) 高橋月峰(龍生派)

〔音楽部〕沢田啓子、板橋健(洋楽) 稀音家六貞治、杵家弥登英、稀音家和加清(長唄)

〔茶道部〕三木宗幸(表千家) 鎌田宗節(裏千家) 勝野翠泉(三彩流) 千葉宗文(宗徧流) 土生南絹(織田流)

第45回宮城県芸術祭入場者

〔開場式〕(9月26日) せんだいメディアアテーク5F) 参加者62人
〔絵画展〕(9月26日) 10月8日 せんだいメディアアテーク5・6F) 日本画59点、洋画245点、入場者六、二三八人
〔写真展〕(9月26日) 10月1日 せんだいメディアアテーク5F) 132点、入場者二、七九九人

〔文学散歩〕(9月30日) 盛岡・北上方面の文学の旅) 参加者三三人
〔彫塑展〕彫塑部会員とその仲間展) 10月3日) 8日) せんだいメディアアテーク5F) 25点、入場者二、四一四人
〔華道展〕(10月3日) 8日) せんだいメディアアテーク5F) 前期32点、後期32点、入場者三、五二五人

〔書道展〕(10月10日) 15日) せんだいメディアアテーク5・6F) 369点、入場者二、九四三人
〔工芸展〕(10月10日) 15日) せんだいメディアアテーク5F) 71点、入場者二、三七五人
〔茶会〕(10月12日) 19日) 26日) 輪王寺) 入場者九八六八人
〔長唄演奏会〕(10月19日) 仙台市戦災復興記念館) 入場者二、三四人
〔音楽会〕(10月19日) 仙台市青年文化センター) 入場者三七五人
〔文芸祭〕(10月25日) 東京エ

レクトロンホール宮城会議室) 入場者七二人
〔写真展美里展〕(10月17日) 23日) 美里町近代文学館ギャラリー) 64点、入場者三、〇〇人
〔絵画・書道展東松島展〕(10月31日) 11月3日) 東松島市コミュニティセンター) 日本画14点、洋画37点、書43点、入場者四九八人

〔絵画・書道展大崎展〕(11月6日) 9日) 大崎市松山体育館) 日本画16点、洋画41点、書42点、入場者八九六八人
〔第39回洋舞合同公演〕(12月21日) イズミティ21大ホール) 入場者一、二五〇人

〔絵画・書道展大和展〕(11月12日) 16日) 大和町まほろばホール) 日本画13点、洋画40点、書51点、入場者五一八八人
〔閉会式〕(11月21日) ホテル仙台プラザ) 参加者二、五〇人
〔宮城県芸術祭参加行事〕
〔第53回仙台三曲協会定期演奏会〕(10月5日) イズミティ21大ホール) 入場者一、一五〇人

第45回宮城県芸術祭受賞者

宮城県芸術祭賞	部 門	作 品 名	氏 名
宮城県芸術祭賞	絵画部(日本画)	挽 歌	宮澤 早苗 (仙台市)
	絵画部(洋画)	MAYU-08	三浦 一博 (栗原市)
	写真部	私	杉 幸子 (仙台市)
	彫塑部	昊	大槻 俊之 (仙台市)
	書道部	汪 文 柏 詩(漢字)	遠藤 柳泉 (富谷町)
	工芸部	白 南 風(染織)	伊藤 藤あき (仙台市)
	文芸部	去 り ゆ く も の(短歌)	鈴木 木昱子 (仙台市)
宮城県知事賞	絵画部(日本画)	刻	新藤 圭一 (仙台市)
	絵画部(洋画)	時	岩澤 誠一 (大河原町)
	写真部	Horizon(水平線)	加藤 友一 (仙台市)
	彫塑部	壊 れ た 律 V	阿部 弘子 (仙台市)
	書道部	山 里(かな)	寺島 尚翠 (仙台市)
	工芸部	箱 器(陶芸)	市岡 泰 (美里町)
	文芸部	こ と ば の 雫(詩)	渡辺 仁子 (仙台市)
	文芸部	夢 の 平 原(短歌)	菊地 かほる (大崎市)
	文芸部	貝塚の記憶(俳句)	小笠原 弘子 (東松島市)
	文芸部	暮 六 つ(川柳)	松岡 芳男 (仙台市)
仙台市長賞	文芸部	ゆうどうえんぼく(小説)	渡辺 光昭 (仙台市)
	絵画部(日本画)	待 つ	三浦 孝 (大崎市)
河北新報社賞	絵画部(洋画)	13番目の機械	坂本 和之 (大崎市)
	書道部	近 業 二 顆(篆刻)	岩 拙 廬 (仙台市)
	絵画部(日本画)	相	及川 聡子 (柴田町)
宮城県教育委員会教育長賞	絵画部(洋画)	輪 の 中 で	安達 吉男 (仙台市)
	写真部	浜 に 生 き る	紺野 勝司 (気仙沼市)
	彫塑部	The Rebirth	日下 育子 (仙台市)
	書道部	水月りの詩 薔薇色の空(近代詩文)	柳 由美子 (仙台市)
	工芸部	布染魚文組皿(陶芸)	大原 功樹 (秩父市)
	文芸部	いのちの組曲(川柳)	勝又 明城 (石巻市)
	絵画部(洋画)	海 景	谷地 森真理子 (仙台市)
宮城県教育委員会教育長新人賞	書道部	華 麗(少字)	島津 和子 (岩沼市)
	工芸部	有線七宝幾何文蓋物(七宝)	佐瀬 たか子 (岩沼市)
	絵画部(日本画)	晨	佐藤 松子 (仙台市)
仙台市教育委員会教育長賞	絵画部(洋画)	街	菅原 典子 (仙台市)
	書道部	龔 鼎 孳 詩(漢字)	高 塚 松陽 (仙台市)
	書道部	遠 道(墨象)	八木 薫晃 (石巻市)
	工芸部	赤陶線文陶笛(陶芸)	島見 美由紀 (岩沼市)
宮城県議会議長賞	絵画部(洋画)	巡る光と色彩のモザイク	守田 美代子 (仙台市)
	書道部	鳴 (墨象)	後藤 法明 (栗原市)
仙台市議会議長賞	絵画部(洋画)	私 の 止 り 橋	久保田 敏 (仙台市)
	書道部	青 鷲(近代詩文)	千葉 弘子 (仙台市)
財宮城県文化振興財団賞	絵画部(洋画)	絆	佐々木 和江 (仙台市)
	書道部	夢 上 富 士 山(漢字)	熊 形 鳳苑 (石巻市)
	絵画部(洋画)	暮 れ な ず む	尾谷 たき子 (石巻市)
	写真部	TWILIGHT - 異界の扉	阿部 信義 (大崎市)
門伝勝太郎賞	彫塑部	Mayuko 2008	柏 静恵 (仙台市)
	書道部	六州歌頭 桃花(漢字)	池田 小沙 (仙台市)
	工芸部	夕照一ななかまど一(染織)	安倍 まゆみ (仙台市)
	文芸部	還 ら ざ る 人(短歌)	濱田 利昭 (栗原市)
	絵画部(洋画)	こ け し の 故 里	清野 榮彌 (岩沼市)
	書道部	書 経 よ り(篆刻)	阿部 華山 (仙台市)
成瀬美術記念館賞	絵画部(日本画)	女	安藤 瑠吏子 (大衡村)
	絵画部(洋画)	風 の 記 憶	藤本 奈智子 (仙台市)
	写真部	青春時代、B	佐々木 章逸 (石巻市)
宮城県芸術祭奨励賞	彫塑部	花 孔	須佐 尚康 (仙台市)
	書道部	散 歩 道(近代詩文)	佐藤 琴恵 (七ヶ浜町)
	工芸部	黒 釉 椿 文 組 鉢(陶芸)	中山 晴代 (仙台市)
	絵画部(洋画)	X の 構 図 = 2008	相澤 一夫 (気仙沼市)
	絵画部(洋画)	白 い ベ ン チ	其田 マサ (仙台市)
	絵画部(洋画)	日溜りの語らい 試写会 パートII	栞澤 怜 (仙台市)
	写真部	波 涛	遠藤 正弘 (南三陸町)
	写真部	P・ブティック・ストリート	三浦 通正 (仙台市)
	書道部	張 廷 璐 詩(漢字)	奈須野 青蘭 (栗原市)
	書道部	山 桜(かな)	岡崎 幸子 (仙台市)
	書道部	さひしさのつる日(近代詩文)	武山 櫻子 (気仙沼市)
書道部	伊 東 静 雄 詩(近代詩文)	伊勢 一枝 (仙台市)	
書道部	響 (墨象)	伊澤 香雨 (石巻市)	
工芸部	有線七宝幾何文水指(七宝)	高橋 とも子 (仙台市)	
文芸部	鳥 帰 る(俳句)	畑 中 次郎 (仙台市)	

東北芸術界と
芸術文化に寄与

高倉顧問に 河北文化賞

多年にわたり東北工芸界の
発展と芸術文化の向上に寄与
したとして、宮城県芸術協会
顧問の高倉健氏が第五十八回
河北文化賞を受賞された。贈

呈式は一月十七日、仙台国際
ホテルで行われた。
高倉氏は昭和五年仙台市生
まれ。東北大学教育学部卒。
在学中絵画を杉村惇、陶芸を

山西謙二の各氏に指導を受け
る。宮城県名取高校教諭を歴
り出しに各地の高校教諭を歴
任。高校では次々と陶芸クラ
ブを創設し作陶の喜びを伝え
る。昭和五十年「陶芸美術研
究会陶房酔」を結成。第六回
日展初出品初入選。日展会友
昭和五十三年度宮城県芸術選
奨受賞。「焼きしめにて王朝

文化の持つ奥ゆかしさを表現
した」のが受賞理由。
宮城県芸術協合理事長を二
期経て現在顧問。宮城県教育
文化功労表彰、仙台市市政功
労者表彰、地域文化功労文部
科学大臣表彰。
作陶歴三十年の集大成『高
倉健作陶集1973〜200
3』を平成十六年に上梓。

本選は3月29日
ピアノ・コンクール
第二十九回の音楽コンクー
ル（ピアノ部門）が今年も実
施される。初級、中級、上級
に分かれて予選、本選を経て、
級ごとに最優秀賞、優秀賞、
奨励賞を、該当者には宮城県
知事賞、仙台市長賞、河北新
報賞が贈られる。

予選は二月二十二日（日）
午前十時三十分から仙台市戦
災復興記念館で行われる。本
選は三月二十九日、同会場で。

地域文化功労文科大臣表彰 高倉勝子さん受賞

平成二十年
度の地域文化
功労文部科学
大臣表彰を、
県芸術協会参
事の高倉勝子
氏が受賞され
た。表彰式は
十一月二十一
日、東京・如
水会館で行わ
れた。

河北美術展文部大臣賞受賞。
以後公募展で入賞を重ね、そ
の創作活動は高い評価を受け
ている。昭和五十四年水墨画
墨泉会を、昭和六十年日本画
緑扇会を主宰し会員の指導に
当たり後進の育成に尽力して
いる。河北美術展顧問。
平成八年から宮城県芸術協
会参事として、同協会の要職
を務めるなど本県美術の発展
に寄与した。

平成元年知事表彰、平成五

各地で芸術文
化の振興など地域の文化振興
に功績のあった個人、団体に
対してその功績をたたえ、文
部科学大臣が表彰する。

高倉氏は大正十年生まれ。
日本画家として昭和三十三年

県教育文化功労者 芸協から9氏受賞

平成二十年宮城県教育文
化功労者に芸協関係からは次
の九名が選ばれた。授賞式は
十月三十一日、仙台国際セン

日展特選に 佐藤朱希氏

年仙台市市政功労者表彰を
受賞。永年にわたり日本画の
創作の研鑽に努め普及、発展
に多大な貢献を果たしてい
る。
芸協評議員の佐藤朱希氏が
第四十回日展の日本画部門で
特選を受賞した。
作品は「美野の陽々」と題し、

詩の魅了 大越さんの聴衆を魅了 「ミュージック フェスタ白石」

「みやぎミュージックフェ
スタ2008 in 白石」（副題
「秋おくる・響け白石・き・
ら・り」）が、平成二十年十一
月三十日午後二時から白石市
のホワイトキューブで開かれ
た。
プログラムは四部構成。第

一ステージは宮城県芸術協会
会員によるギターやピアノの
演奏にデュエット。第二ス
テージは白石市で活動する合
唱団と演奏家による合唱やパ
イオルガンの演奏。第三ス
テージは白石キューブ合唱団
とジュニア合唱団の合唱。な
かでも仙台市在住の脳性まひ
など重度障害者大越桂さんの
詩に八重柏真氏が作曲した
「蔵王」など聴衆を魅了した。
佐々木隆行氏の指揮で「こけ
し讃歌」「白石子守歌」を全
員で歌いあげフィナーレを
飾った。

竜宮を目指して、船は瀟江を下る。川にせり出す奇岩の数々。太古の昔、海底が隆起した石灰岩は、ある時は獅子となり、また怪人となり、眼前に迫る。

十一月二十二日十五時二十五分、仙台空港を日常の生活から逃げるように飛びたち、六泊七日の中国・桂林の旅は始まった。まばゆい光あふれる二千万都市上海に三時間半で到着。早速、中華料理の円卓が待つ会場は、中国語が飛び交う結婚披露宴がたけなわ。まさにポーンと飛んできた浦島太郎の気分。以後、十回にわたる中華料理は毎回味も料理も違い、まったく飽きることはなかった。強い中国酒を口に含んでは薄いビールでのどを潤す。農薬の心配など初日から吹っ飛んでしまった。

翌日、国内線は南西に向けて二時間半フライト。旅の目玉である桂林に到着。現地のガイドは蘇瑜(そよ・ゆう)さん。少数民族の瑶族出身で、色黒いが愛嬌があり、独学の日本語を上手に操る。わざと日本語を面白く間違えたりし

て、バスの車中を和ましてくれる。同じ中国人でも入国管理の女性とはえらい違いだ。象が鼻を水につけている姿の「象鼻山」を眺め、広大な「七星公園」に到着。初めてのびのびと歩く。寝転んでいるパングを見た後、そっくりの「らくだ岩」に出合う。早坂画伯はすばやく筆を走らせ、スケッチする。その夜は当地の雑技団観劇。演目は「夢幻瀟江」。目を見張る軽業で一同息を呑む。会場は平日でも満員。桂林六十七万人の大都会を実感。

「今様竜宮に遊ぶ」



文と絵 宮澤 寒山 (邦楽)

テルに興奮した体を休める。しかしもつと驚くことが翌日待っていた。それは何の変哲もない山の小さなほこら。実はこれが大鍾乳洞「銀子岩」の入り口であった。進むに従い天井はどんどん高くなり、急に開けた大ホールには神の

て言葉を探せば「おら、おつたまげだ!」。これに極彩色の照明がいつそうこの世のものではなくしている。これぞまさしく竜宮城。出口でまばゆい陽光に視力を奪われる。桂林一の絶景と言われる頂にぼっかり穴の開いた「月亭山」を眺めながら農村を散策する。この後

中国桂林 瀟江の旅

は千年の歴史を持つ「大墟古镇」に遊ぶ。古い家並みが川沿いに連なっている。貧しさが家々の土間から伝わってくる。誘われるままに一軒のうす暗闇に足を入れる。女は「ニクソン」と言いながら額に入れた古い写真を持ってきた。三十三年前に大統領と一緒に下げ髪の少女を指差し、自分だと言う。五元でコーヒーをすすり、一元でトイレを借りた。帰りに人懐かしい顔をして、小さな蜜柑を三つ籠から取り出してくれた。なぜか別れがたい懐かしさがあった。旅の後半の二日間は首都北京。オリンピックで汚い家並みは一掃され、塵一つない公

園に一変していた。ブランド物を扱うデパートが立ち並ぶ繁華街王府井。車が溢れる広い通り。冷たい風が吹き抜けるのを感じた。

芸術家やその愛好者ばかりの二十三名の旅は格別の楽しさがありました。中華料理を囲んでの談笑。座席やロビーなどでの語らい。考えてみればこれ以上の部門交流はありません。帰仙後の交友はいっそう深まる事でしょう。書道の菊田先生は書や硯や紙を見て教えてくれます。短歌の原田先生はまもなく米寿で、参加者の最高齢。同じお仲間と機内で紙切れを回し連歌作り。到着まで半歌仙を完了。洋画の早坂・桜井両先生は少しの休憩でもスケッチブックを広げる食欲さ。八十回以上中国に來ている高橋通子団長に率いられた旅は、安心して任せられる旅でもありました。

二十八日、日常満載の仙台に到着。浦島と違い一行は異国の風物と芸の刺激を存分に受け、一段と若返った気がします。

運営委員に推薦

各部で開催された運営委員会で、次のように運営委員の推薦があった。

- 〔華道部〕(小原流) 保原光霞
 - 〔茶道部〕(宗偏流) 菅原宗初
- なお、茶道部原田宗良氏(宗偏流)は辞任した。

会員の入賞・入選など

- ◇第63回行動美術展
- ▽会友賞Ⅱ桜井忠彦・会員推挙Ⅱ入選Ⅱ伊藤信義、高橋幸造、若生正子
- ◇第93回院展入選
- 〔日本画〕三浦長悦・院友推挙
- ◇第4回東山魁夷記念 日経日本画大賞展入選

事務局 日誌

会務報告

- 12・6 理事会
- A・B・C委員会の報告
- 集約と今後の進め方について
- 規定集の各項目検討

後援

- ☆宮城書芸院選抜小品展
- ☆折々の言の葉を書く
- 併催教育部選抜百人展

- (日本画) 及川聡子
- ◇第55回日本伝統工芸展
- ▽日本工芸会新人賞Ⅱ〔陶芸〕大原功樹▽入選Ⅱ〔陶芸〕橋本昌彦(金工) 江田蕙(七宝)

- 安藤令子
- ◇第23回アジア国際美術展
- ▽部門賞Ⅱ(洋画) 小山喜三郎
- ◇第40回日展
- ▽特選Ⅱ(日本画) 佐藤朱希
- ▽入選Ⅱ(日本画) 安住小百合、佐藤松子、七宮牧子、吉田輝(洋画) 阿部邦利、大山千富、佐藤幸子(工芸) 〔陶芸〕相沢正樹、浅井裕子(染色) 平澤富子(書道) 大友青陵、板橋煌陵、高野芳月、村山柳雅

- 11月18日～11月24日
- リオーネふるかわイベント
- ホール
- ☆竹の会第1回演奏会
- 12月5日
- 仙台市戦災復興記念館
- ☆東北書道新春選抜展
- 1月9日～1月14日
- せんだいメディアテーク
- ☆第41回社団法人創元会宮城県支部展
- 2月6日～2月11日
- せんだいメディアテーク

- ☆第15回東北新象展(盛岡展)
- 2月11日～2月15日
- 盛岡市民文化ホール
- ☆第26回白土会展
- 2月20日～2月25日
- せんだいメディアテーク
- ☆第70回春のいけばな展
- 2月26日～3月3日
- さくら野百貨店仙台店
- ☆第2回佐藤鬼房顕彰全国俳句大会
- 3月20日
- 塩竈市遊ホール
- ☆第4回A.L.L. NIPPON D. A. T. EクラシックパレエコンペティションMIYAGI
- 3月26日～3月28日
- 仙台市民会館大ホール
- ☆第9回箏・三絃・尺八演奏会
- 3月28日
- 仙台市戦災復興記念館
- ☆佐藤院山開軒40年記念尺八・箏コンサート
- 4月12日
- イズミティ21小ホール
- ☆第73回河北美術展
- 4月27日～5月6日
- 藤崎本館7階催事場・8階グリーンルーム

- 〔絵画部〕(日本画) 今野しげよ、草刈時廣(洋画) 玉田いと子、吉田功、桜井栄【工芸部】(陶芸)

退会会員

謹 弔

- 菊池洋子【書道部】小野耕仙(悦子)、東海林耕永(紀子)【華道部】(小原流) 若生香苑(喜与子)、大森桐水(和子)【音楽部】(長唄) 杵家弥左(高) 畑中久美子【文芸部】(詩) 阿部芳久(短歌) 太宰幸子、横山志ずゑ、白井千里(俳句) 關一草(新平)【茶道部】(裏千家) 山名宗江(ひさ江)、小山宗照(きく)、米澤宗貞(定子) (三彩流) 伊藤翠波(つや)【写真部】平間新、高橋孝治

書道部	松本蒼煌殿	平成20年10月11日
書道部	安部蒼峰殿	10月16日
茶道部(裏千家)	加藤宗弘殿	10月24日
文芸部(短歌)	高橋辰男殿	11月24日
文芸部(俳句)	伊東辰之丞殿	12月18日
文芸部(俳句)	大和田杏子殿	12月19日
茶道部(織田流)	佐藤南綾殿	12月20日
文芸部(短歌)	穴山恭子殿	12月26日
音楽部(長唄)	稀音家六芳遊殿	12月29日

けやきの譜

「謹賀新年、あけましておめでとーございます、賀正、迎春、A Happy New Year」年頭に届いた賀状の賀詞はいろいろ。どれも新春を祝う心情がこもって、気分はいっそう高揚する。▼賀詞が印刷されているのは半ば当然なのだろうが、送り先の住所氏名もほぼ半数はドット文字。つまりワープロやパソコンで印字されていた。OA機器の普及がもたらした証で、使用しないのは、時代遅れ。とも▼昨年半ば過ぎからアメリカを震源に全世界を襲った不況の大波は、当然わが国にも押し寄せて、年末年始にわたり、派遣ざりごとから失職した人たちが路頭に迷った。救済の手段も見えず困窮の度はさらに深まるだろうともいう▼成果主義とか格差社会とか労働力を機械の部品のように扱ってきた、厳しい現実と観念するしかないのか。血の通った一人々々が深呼吸できる社会を守らなければ。そのための努力も求められていよう。(純)